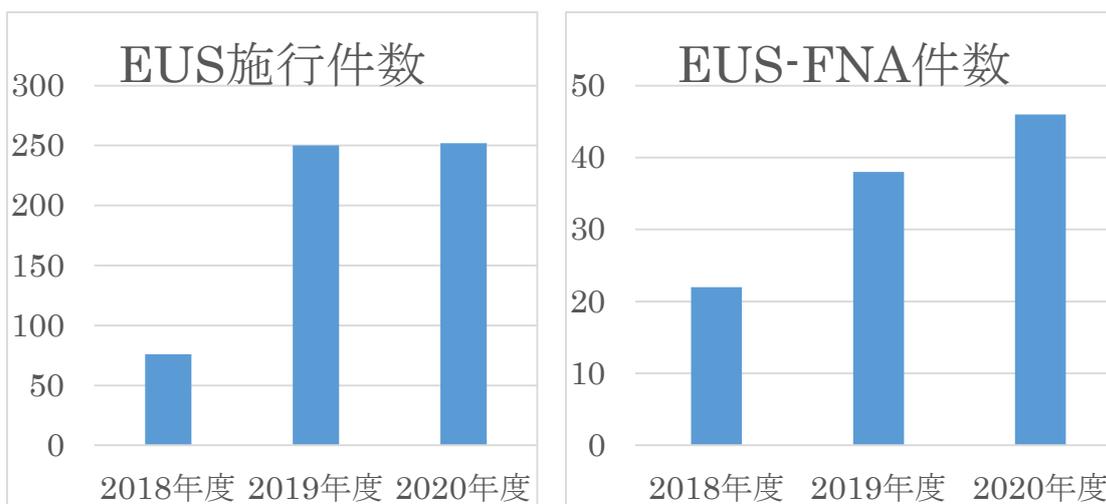


当院における EUS（超音波内視鏡）について

茅ヶ崎市立病院では超音波内視鏡検査（EUS）を使用し、膵がんや胆管がんの早期発見に力を入れております。当院における EUS は増加傾向であり、茅ヶ崎市において No1 の検査数を誇っており、患者さんに安心して検査・治療を受けて頂ける環境を整えております。また EUS を使用した細胞採取（EUS-FNA）はもちろん、さらに近年高度医療施設で普及している EUS を使用した胆道ドレナージ（EUS-BD）などの超音波内視鏡下治療（Interventional EUS）にも対応しており、胆膵疾患におけるあらゆる内視鏡治療を提供しております。



EUS（超音波内視鏡）とは



当院で使用しているコンベックス型超音波内視鏡

EUS（超音波内視鏡）は、内視鏡の先端に超音波が付いた特殊な内視鏡です。CT や MRI、腹部超音波検査では見つけにくい小さな病変を見つけることに優れている検査です。膵臓や胆管の病気が疑われる場合に、胃カメラと同じように口からカメラを入れて詳しく調べることができます。さらに内視鏡の先端から針を出し、体の奥深くの膵臓等の細胞を採取し腫瘍の確定診断をつけることもできます。

当院の EUS の検査の流れ

- ・ EUS は外来で行うことができる低侵襲な検査（身体の負担が少ない検査）です。
- ・ 当院では苦痛のない検査となるように努めています。
- ・ 患者さんの負担を軽減するために全例鎮静薬（眠くなる薬）を使用し検査を行います。意識はほとんどなく、また痛みもほとんど感じません。
- ・ 検査時間はおおよそ 15 分程度です。検査終了後は別室で 1 時間程度休んで頂いた後、ご帰宅となります。



左側の EUS の写真では膵臓に 10mm 大の黒い腫瘍（青丸で囲まれている部位）を認めています。膵臓がんが疑わしく、超音波内視鏡の先端から針を出し細胞を採取したところ、がん細胞を認め、膵臓がんの診断となりました。このように EUS は、CT や MRI では見つけにくい小さな膵臓がんを発見することができ、早期診断・早期治療につなげております。

EUS と膵臓がん

膵臓がんは進行した状態で見つかることが多く、予後が非常に悪い癌として有名です。ただし、腫瘍が小さい早期の段階で見つけ治療を行えば、完治することも可能です。膵臓がんを小さい段階で見つけるための非常に有力な検査法として、EUS は注目を集めています。

- ◇ 膵臓がんのリスク因子
 - 家族歴、糖尿病、肥満、慢性膵炎、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、飲酒歴、喫煙歴
- ◇ 膵臓がん患者における症状
 - 腹痛、早期膨満感、黄疸、体重減少、背部痛
- ◇ 膵臓がん患者における血液検査異常
 - アミラーゼ・エラスターゼ・CA19-9・DUPAN2・SPAN1 の上昇

当院では、上記のようなリスク因子、症状・血液検査異常のある患者さんの超音波内視鏡検査（EUS）を積極的に行い、膵臓がんの早期発見に努めています。EUS を受けることができる病院は限られており、膵臓に異常を指摘された方や膵臓がんのリスクもっている方のお役に立てると考えております。

お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。